［畑･転換畑作部門］ 農業研究所ホームページへ

3. 糯性裸麦「ダイシモチ」の播種適期並びに播種時期に応じた栽培法

［要約］
「ダイシモチ」の収量を確保するための播種適期は 11 月である。このとき後期重点型施肥を行うと、多収となる。10 月の早期播種では後期重点型施肥を、また、12 月の晩期播種では播種量の増量と後期重点型施肥を組み合せることで減収を緩和できる。

［担当］ 岡山県農林水産総合センター農業研究所　作物・経営研究室
［連絡先］電話 086-955-0275
［分類］ 情報

［背景･ねらい］

本県における裸麦の栽培面積は、令和３年度では 205ha であり、糯性裸麦「ダイシモチ」がその 60%強を占める。しかし、本県には「ダイシモチ」の栽培技術指針等がないため、生産現場ではビール大麦の栽培技術指針を代用しており、適切な栽培指導が困難な状況にある。そこで、「ダイシモチ」の適正な播種時期並びに播種時期に応じた播種量及び施肥方法を明らかにする。

［成果の内容･特徴］

1．「ダイシモチ」は播性Ｖの秋播性品種なので、10月中旬に早播きしても幼穂凍死は生じない（表１）。
2．標準播種量及び施肥量では、10月中旬の早期播種及び12月中旬の晩期播種で年次により減収する場合があるため、11月上旬から下旬が播種適期である（図１、表１）。
3．11月の適期播種では、基肥を減らし、分げつ肥と穂肥を増施する後期重点型施肥を行うことで、穂数が増大傾向にあり、整粒収量が増加する（表１、表２）。
4．10月中旬の早期播種では、後期重点型施肥を行うことで、標準的な施肥よりも穂数が増大傾向にあり、整粒収量が増加する傾向にあるので、早期播種による減収を緩和できる（表１）。
5．早期播種や適期播種の播種量は 10a 当たり 8.5～10kg でよい（図１、表１）。
6．12 月中旬の晩期播種では、播種量を 10a 当たり 13kg に増量すれば、穂数が増大傾向にあり、整粒収量が増加する傾向がみられ、さらに、後期重点型施肥を組み合わせることで、より増収が見込まれる（表１、表３）。

［成果の活用面･留意点］

1．本結果は、農研（赤磐市）の水田転換畑における麦類単作で、条間 15cm 全耕条播での栽培結果に基づいたものである。
2．後期重点型施肥における好適な施肥量については、さらに検討を要する。

［具体的データ］

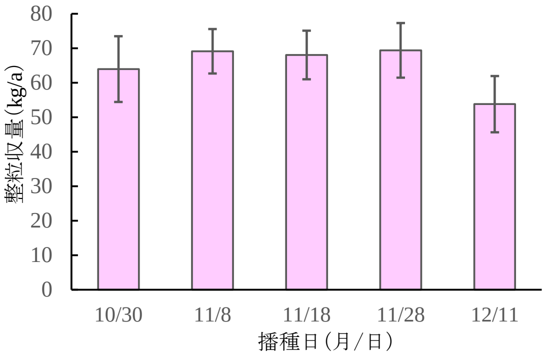

図１　播種期と「ダイシモチ」の整粒収量(2019 年播種)

注 1) 播種量は 10kg/10a、施肥は基肥、分げつ肥、
穂肥を窒素成分量でそれぞれ 4、4、3kg/10a 施用

注 2) エラーバーは 95%信頼区間

表1　早期播種と適期播種に後期重点型施肥、晩期播種に播種量増処理を行った「ダイシモチ」の生育と収量（2020年播種）

播種期・播種量・施肥	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	整粒収量 (kg/a)	収量比	整粒歩合 (%)	千粒重 (g)	幼穂凍死率 (%)
早期・標準・標準	3.27 a	5.19 a	3.9 a	529 a	49.0 a	77	93.5 ab	29.4 a	0
早期・標準・後期重点型	3.26 a	5.18 a	4.1 a	611 a	54.4 ab	85	91.9 ab	29.5 a	0
適期・標準・標準	3.28 ab	5.19 a	4.2 a	510 a	63.8 ab	100	95.7 b	31.2 ab	0
適期・標準・後期重点型	3.29 b	5.19 a	4.1 a	628 a	69.7 b	109	95.8 b	30.6 ab	0
晩期・標準・標準	4.14 c	5.26 b	4.8 b	530 a	64.0 ab	100	90.0 a	32.4 b	0
晩期・増量・標準	4.13 c	5.27 c	4.8 b	587 a	71.2 b	112	94.7 ab	33.2 b	0

注1) 早期播種は10月15日、適期播種は11月13日、晩期播種は12月15日に播種。標準播種量は8.5kg/10a、播種量増では12.8kg/10a
標準施肥は基肥、4.5葉期追肥、幼穂分化Ⅸ期（幼穂長3mm）追肥を窒素成分量で4、4、3kg/10a与えた
後期重点型施肥は基肥、4.5葉期追肥、幼穂分化Ⅸ期（幼穂長3mm）追肥を窒素成分量で3、4.5、4.5kg/10a与えた

注2) 異なる英文字間に5%水準で有意差あり（Tukey法）、英文字のない数値は分散分析で有意でない

表2　後期重点型施肥を行った「ダイシモチ」の生育と収量（2021年播種）

施肥の別	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	整粒収量 (kg/a)	収量比	整粒歩合 (%)	千粒重 (g)
後期重点型	4.10	5.22	4.5	455	56.4	127	95.0	31.3
標準施肥	4.09	5.21	4.0	424	44.5	100	98.2	33.0
分散分析	n.s.	n.s.	*	n.s.	**	―	n.s.	n.s.

注1) 11月17日播種、播種量は8.5kg/10a
標準施肥は基肥、4.5葉期追肥、幼穂分化Ⅸ期（幼穂長3mm）追肥を窒素成分量で4、4、3kg/10a与えた
後期重点型施肥は基肥、4.5葉期追肥、幼穂分化Ⅸ期（幼穂長3mm）追肥を窒素成分量で1、3、7kg/10a与えた

注2) 分散分析で、* 、**は5%、1%水準でそれぞれ有意、n.s. は有意でない

表3　晩期播種に播種量を増やし後期重点型施肥を行った「ダイシモチ」の生育と収量（2021年播種）

播種期・播種量・施肥	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	整粒収量 (kg/a)	収量比	整粒歩合 (%)	千粒重 (g)
晩期・増量・後期重点型	4.14	5.26	4.4	530	54.0	121	95.9	31.9
適期・標準・標準	4.09	5.21	4.0	424	44.5	100	98.2	33.0
分散分析	***	***	n.s.	**	*	―	*	n.s.

注1) 適期播種は11月17日、晩期播種は12月15日に播種。標準播種量は8.5kg/10a、播種量増は12.8kg/10a
標準施肥は基肥、4.5葉期追肥、幼穂分化Ⅸ期（幼穂長3mm）追肥を窒素成分量で4、4、3kg/10a与えた
後期重点型施肥は基肥、4.5葉期追肥、幼穂分化Ⅸ期（幼穂長3mm）追肥を窒素成分量で2、4、5kg/10a与えた

注2) 分散分析で、*、**、***は5%、1%、0.1%水準でそれぞれ有意、n.s. は有意でない

［その他］

研究課題名：主要農作物品種試験（麦類）

予算区分・研究期間：県単・令元～３年度

研究担当者：大久保和男